

マドリード・トレド・バルセロナ

直行便で行く スペイン三都物語 5泊7日の旅



(王宮 マドリード)



(古都 トレド)



(サグラダ・ファミリア教会 バルセロナ)

江戸時代300年を跳び越えて、安土・桃山時代からおつきあいがあるスペイン。思わぬところに文化の接点があります。カステラがスペイン語なのは有名ですが、まさか「おじや」が「オジャ」というスペイン料理から来ているとは知りませんでした。

スペインというと、昔の西部劇ではスペイン軍が敵役で出てきて、極悪非道の大悪人のようなイメージで描かれていますが、それは大いに誤っています。陽気で明るく、のんびりした国民性。食事は1日5回食べるのが一般的。魚介類が豊富です。お昼休みは3時間とるとか・・・要するに彼らは人生を楽しんでいるんだなと思います。どこに行っても最初の一言は「オラー！」で大丈夫。笑顔がそれに続きます。そんなスペインを見に行きませんか？



スペインは、ヨーロッパの中でも遠い国です。その先にはポルトガルしかありません。昨年のイギリスより国一つ分余計に飛びます。直行便で行きが14時間10分ほど帰りが13時間15分ほどです。中東や欧州いずれかの中継地を経て乗り継ぐ手はありますが、20時間近い時間が必要になり、中身の観光が圧迫されてしまいます。直行便はナショナル・フラッグの「イベリア航空」のみで、この便に日本航空も共同運行しています。それで日本航空のアテンダントさんも3名ほど乗っています。ということはイベリアを使うのが最も良いということでしょう。

ご覧の機材はエアバス A330-200型です。昨年イギリスから乗ったボーイング787-8型は素材が日本のカーボンで機体の重さを徹底的に軽くする方法で航続距離を稼いでいました。エアバス A330 は胴体の長さを5メートルほど短く抑える事により航続距離を稼ぎます。外見は翼が長く、グライダーのようなしなやかな印象を受けます。騒音・振動ともボーイング系より低めと感じました。シート間隔は31インチ(約79センチ)シート幅18.1インチ(約46センチ)あり国際線エコノミークラスとしては普通なんですが、我々はJALやANAの広めの基準に慣れていますので、機内ではリラックスできることが一番の服装をお勧めします。

成田空港に9:00集合、11:05発のイベリア航空6800便を利用します。マドリード空港到着は18:15です。スペインとの時差は10月末までサマータイム期間中のため7時間。従って14時間10分程かかることになります。

《 ホテル ウェリントン マドリード 》



マドリードのホテルは「ホテル ウェリントン マドリード」です。こちらに2泊します。満点5つの5つ星ホテル、マドリード屈指の高級ホテルと言われることが多いホテルです。この付近は高級ブランドのお店が並んでいますので益々そのように感じます。ヨーロピアン・オーソドックス・タイプのホテルです。



(客室)



(洗面)



(バスタブ有り)

2日目

マドリード→トレド→マドリード

朝食後、午前中にトレドへ出かけ午後はマドリードに戻ってプラド美術館やフラメンコを見ます。



【トレド】（世界遺産）



三つの都の最初の観光は「もし、スペインに一日しか滞在できないとしたら、トレドに行け。」と言われるトレドです。ここはローマ帝国時代から続く城塞都市。6世紀に西ゴート王国首都になってから発展の速度に勢いがつきました。711年イスラム教徒による征服。1085年アルフォンソ6世によるキリスト教再征服というように主人を変えてきました。イスラム、ユダヤ、キリスト教の民族が仲良く暮らす時代があり、また反目・追放の時代があり、現在はキリスト教の時代ですがイスラムの影響を強く受けている姿を見せています。建築に関してイスラムは高度な技術を持っていました。トレドの持つどこことなくエキゾチックな雰囲気はイスラム文化から来ているのです。川は「タホ河」と言います。



ここがトレドの入り口です。トレドの街には写真の中央下の入り口から右上に向かって伸びるエスカレーターで上がって行きます。山登りの必要はありません。



(エスカレーターからのトレド郊外の風景)



スペインは日本のようにコンビニ店があちこちにあるという訳にはいきません。じゃ、水が飲みたいとき、飴がなめたいとき、そんなときは街頭にあるテント仕立てのお店が便利です。小銭を手に入れたいときも OK。

《 カテドラル （サンタ・マリア・デ・トレド大聖堂） 》



トレドのカテドラルはスペインキリスト教の首座大司教座です。つまりスペインのカトリックの総本山。建物はトレドの中では比較的新しく、1227年着工の1493年竣工。完成まで266年かかっています。スペインでは何でも時間がかかります。基本的にはフランス・ゴシック様式でスペイン王家は元々フランスの貴族だからですが、それに再征服後の残留イスラムとキリスト教が融合したムデハル様式が混じってスペイン独特のものになっています。



パイプオルガンはキリスト教会に於いてはメインの楽器で音色も美しく、好きな楽器です。色々なオルガンを見てきましたが、金色に彩色されて、これほど豪華絢爛なオルガンは珍しいです。スペイン・カソリックの面目躍如ですね。

【 マドリード 】

マドリードは現在のスペインの首都ですが、首都になったのは1561年です。関ヶ原の39年前ですからそんなに古い歴史ではありません。マドリードに遷都した時の王様はフェリペ2世です。フェリペ2世はギリシャから宮廷画家として招聘したエル・グレコを嫌ったりして現代人から見た印象は良くないですが、都を移した理由が「鷹狩りに便利だから」なんだそうで、思わず「本当？」と思います。きっと教会の締め付けが厳しすぎたとか他に本当の理由があるのでは？と勘ぐってみたいです。その頃のトレドは正に最盛期、最盛期の遷都とは正しい選択だったのでしょうか？

とは言え、スペインのちょうど真ん中、人口は約325万人で、東京から行くと、コンパクト感があります。いやそんなこと言うと失礼です、東京は江戸時代から世界最大の都市だったのですから東京が大きいと見るべきでしょう。マドリード空港には年間4,900万人の観光客が降り立ちます。なんと人口の15倍の年間観光客数。日本も観光資源の開発を見習わなければなりません。

《 プラド美術館 》

8,000点以上の美術作品を所蔵しています。パリのルーブル美術館、ロシアのエルミタージュ美術館、そしてここスペインのプラド美術館が世界三大美術館です。



先ず、建物に近づくにつれ入館を待つ人の列に驚きます。プラド美術館は人気が高いです。



階段を上ったり降ったりしてここに来ました。これは3階部分です。一番スペースが狭く、ほとんどゴヤ専用でした。美術館は写真も撮れず、お伝えしにくいですが、子供の頃美術の教科書で見た「裸のマハ」と「着衣のマハ」がここに並べて展示されています。まさか本物を見に来る日が来るとは思いませんでした。

そのほか、プラド美術館では、
エル・グレコ 「受胎告知」「聖三位一体」「羊飼いの礼拝」等

ラファエロ 「羊をつれた聖家族」等
ティントレット 「弟子の足を洗うキリスト」等
アルベルト・デューラー 「アダム」「イブ」等 有名な絵画がご覧になれます。



有名美術館ですからお土産のしおりや絵はがきも大変に重々しいです。

《 お土産店 ティミール 》



プラド美術館を出たところ、通りの向こうに日本語で買える免税品お土産店「ティミール」があります。日本人経営でお店に出ているのは松尾部長さんです。



日本語表示があるお店は少ないので、ほっとします。バッグ類の他、チョコレートやマロングラッセ等のお菓子も買えます。



いかにもスペインのデザイン。布ではなく革製品でした。

《 昼食 「ラ・パエジャ・レアル」 》



この日の昼食は「ラ・パエジャ・レアル」です。日本人とみて、マネージャーさんが自分で持ってきてくれました。パエリアはこのような大皿を見せてから取り分けます。「どうだい、旨そうだろ？」と彼の顔に書いてありますね。ムール貝と海老のパエリア。



順序が逆でした、左がサーモンの燻製いりのサラダ、右はイカとイイダコのグリルでしょうか。こちらが先に出てきます。

《 王宮 》



マドリードの王宮はスペイン王の王宮ですがファン・カルロス 1 世は郊外のサルスエラ宮殿に住んでおり、政府行事が無ければ観光できます。紺碧の空に白亜の殿堂というたい文句の通りの写真が撮れました。王座の間、大広間、晚餐会場など豪華絢爛。絵画、タペストリー、様々なお道具類もご覧下さい。

写真の銅像は「フェリペ 4 世騎馬像」です。ベラスケスの描いた肖像画を元にして作られましたが、馬がヒヒーンと啼いて後ろ足で立つこのスタイルは世界で初めてだったそうで、重量配分や安全性など大変難しかったと伝えられています。なんとこの計算を行ったのはガリレオ・ガリレイだったそうですが、驚きました。本当なんですか？

《「モレリア」 にフラメンコを見に行く。》

スペインと言えば闘牛とフラメンコが頭に浮かびます。ところが闘牛の方が元気がありません。残酷だという世論が台頭しており、実はバルセロナでは禁止されてしまいました。時代は変わりつつあります。ではフラメンコを見に行きましょう。

フラメンコも色々な見方があるのですが、本当のフラメンコ好きという方々は「タブラオ（板張り舞台）」と呼ばれる食事も取れる常設小屋に行くのが通とされています。そこでマドリードの有名タブラオ「コラル・デ・ラ・モレリア」に行きます。ここで問題が生じました。「モレリア」はミシュランの 1 つ星付きの食事が取れますが、今ひとつ弱いのです。狭いところにお客様が密集するタイプのお店で、スペースが狭いのも 2 時間座っていなければならないことを考えると無理があります。

《 「ラ・タベルナ・ヒホン」で夕食を取る 》



それで、悩みましたが「ご飯も食べられるフラメンコ常設館」より、ちゃんと食事を取ってから「モレリア」に行くことにします。「ラ・タベルナ・ヒホン」の看板です。タベルナは「飲食店」の意味です。普通の気軽な食堂の事なんですけど、実はこのお店、普通では無いエピソードがあります。「ヒホン」はスペイン内戦の時に西側ジャーナリスト達のたまり場の存在でした。ですから「誰がために鐘は鳴る」「武器よさらば」等で有名なアーネスト・ヘミングウェイも、この店で毎日食事していたのです。上記作品の細部は、この店でジャーナリスト達の話から成り立っているのかもしれませんが。このあとヘミングウェイは昭和29年に「老人と海」でノーベル文学賞を取るようになります。



これが店内です。壁に掛かっている絵や写真は訪れたジャーナリスト達です。ヘミングウェイが通ったお店で同じ料理を食べるのも良いものだと思います。



牛肉のデミグラスソース煮込み、美味しかったです。それから右側の一部見えているピーマン料理、「ピーマンって美味しいんだ」と思いました。日本では基本的にピーマンは食べない私でもです。このお店の特徴は、スペイン料理とはいえ世界中のたいていの人たちが美味しく食べられるという点だと思います。

《 いよいよ「モレリア」に行く 》



「コラル・デ・ラ・モレリア」は昭和31年に「王宮」近くの旧市街で創業された有名タブラオで沢山のガイドブックにも載っていますから、世界中から観光客がこのタブラオを目指してやって来ます。自らフラメンコ・ダンサーだった創業者婦人のブランカ・デル・レイさんが選び抜いたアーティスト達は本物でした。



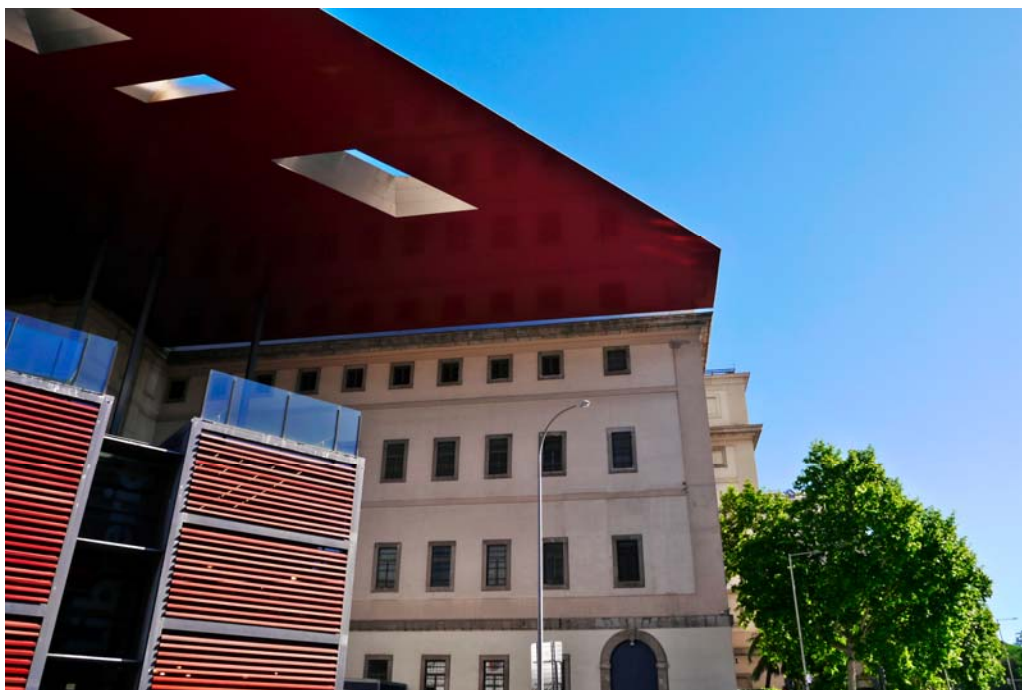
これぞフラメンコというプログラムが次々と演じられます。お客様は大興奮。本当に世界各地からの観光客から大喚声が飛び交います。興奮して一緒に騒いしまうと後で寝られなくなるほどです。



フラメンコというと女性のものと思われがちですが、本当の主演は男性の踊りだそうです。確かに激しいリズムできっぱりと刻んでいくフラメンコは男のものかもしれません。タブラオでも、この男性ダンサーは女性より大きな喚声を受けていました。マドリードの夜は更けていきます。

午前中はマドリードでソフィア王妃芸術センター等、午後からスペイン版新幹線である「AVE」に乗ってバルセロナに向かいます。

《 ソフィア王妃芸術センター 》



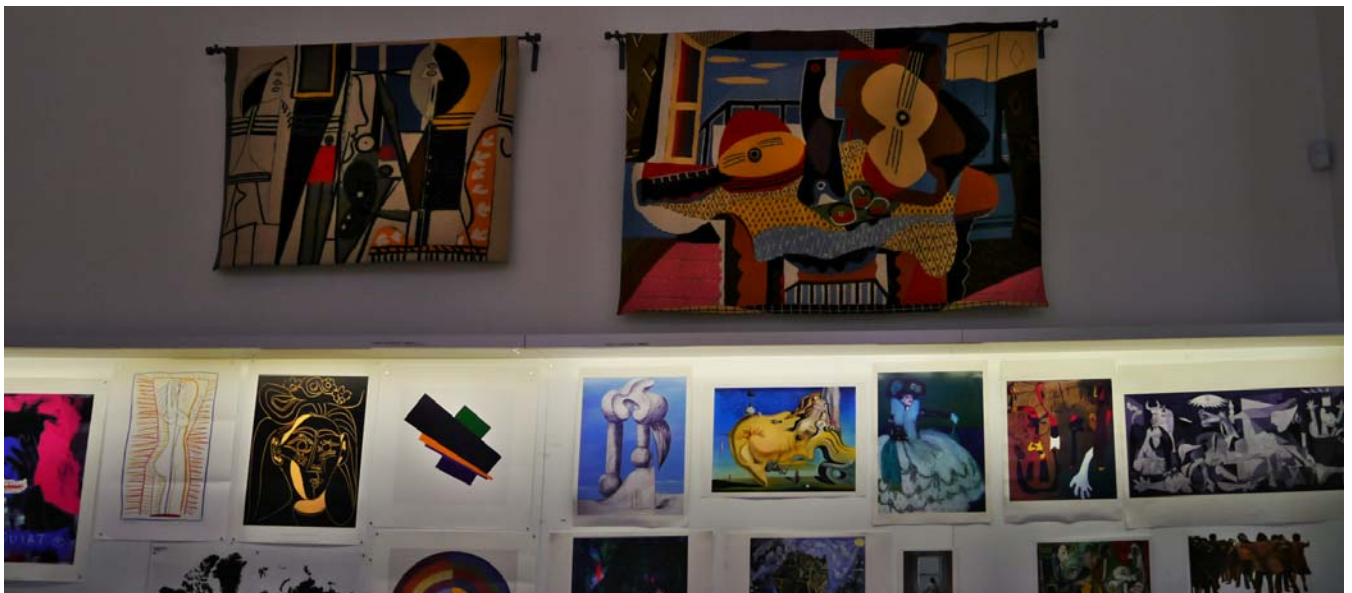
新館の入り口です。高い吹き抜けと屋根の裏側の赤がなんともおしゃれです。このモダンな雰囲気と、



この中庭の落ち着いた雰囲気が激しい対比を見せて、「さすがスペイン、一筋縄ではいかないな。」と思わせます。

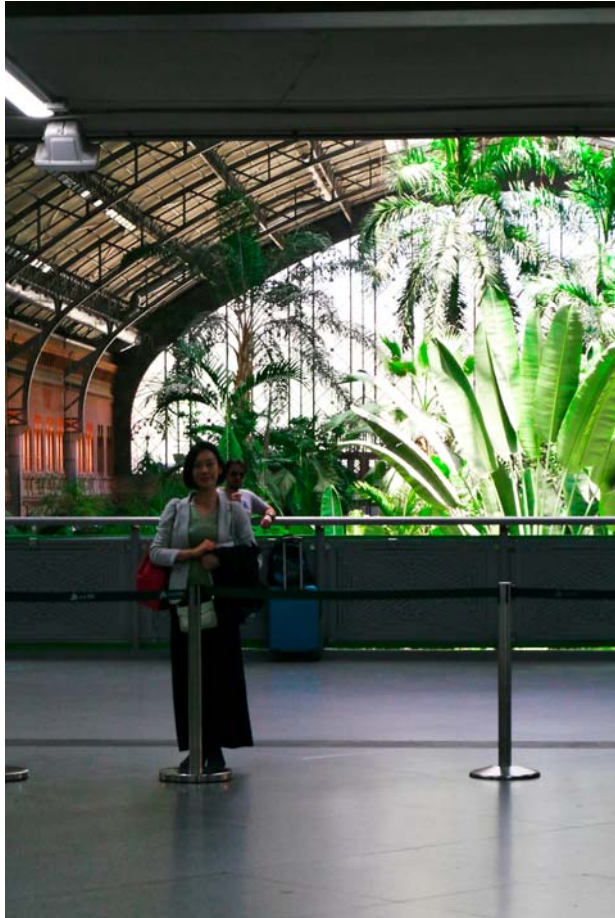


こちらの目玉は、なんといってもこれ。ピカソの「ゲルニカ」が見られることです。原画を写真に写せませんので、お土産の色紙を写真に撮っています。原画の印象と全く違いますが是非実物の前に立ってじっくりご覧下さい。



その他に見られる画家は、これもお土産売り場の写真ですが、下段中央のダリをはじめとするシュール・リアリズムの画家とか、その隣の「青の時代」のピカソとか、「プラド美術館」が正統派とすれば、その後の現代へ大きな影響を及ぼす作品群を見ることになります。

《 スペイン版超特急「AVE(アヴェ)」に乗ってバルセロナへ 》



AVE の改札口で、マドリードのガイドさんとお別れすることになります。ガイドの CATA さんが何故ここにいてくれるのかというと、AVE には飛行機のように荷物検査があったり、(刀剣類をお土産品として持っているとお土産店の購入証明書のチェックがあります。) 出発番線が複雑であったり (スペインの鉄道は全てマドリードから放射状に広がるため中心のマドリードがとても複雑です。スペインの人でも間違いやすい。) と困難が予想されるため、見守ってくれているのです。

お顔が見えにくいですか？大丈夫です。東京シティ旅行会のマドリードでのご案内をお願いして来ました。

勿論、大和撫子です。



「AVE」の車両です。赤の尾灯を点けた後尾の写真で申し訳ありません。実は明るい部分の写真が出せないくらい汚れています。どうして洗わないかは動き出すとわかります。沿線はスペイン煉瓦色のむき出しの台地が延々と続くからです。でも室内は清潔で快適です。車内販売も何度も廻ってきます。



時々現れる緑はブドウ畑かオリーブ畑です。この写真は山上に城砦が見えます。



山の間から海が見えてくると、バルセロナはもうすぐです。海は地中海です。

《 バルセロナでのホテル 「メリア・バルセロナ・サリア」 にチェック・イン 》



(バスタブあります)



(シャワールーム)

「メリア・バルセロナ・サリア」は、スペインの新しいジャンル「アートホテル」というおしゃれなホテル群の先駆けとなったホテルです。ガイドブックには「バルセロナのホテルの中で朝食が最高に美味しい」とあります。期待できます。

ホテル名について一つだけお知らせがあります。このホテル、日本では「メリア・バルセロナ・サリア」なんですが、現地では「メリア・サリア」と呼ばれています。タクシーでホテルに帰るときバルセロナを入れてしまうと、タクシーの運転手は「メリア・サリア」のことだとは思うのですが、トラブルを恐れてスマホで検索して確かめようとします。検索が終わらないと車は動きません。時間がもったいないのでタクシーでは是非「メリア・サリア」と言って下さい。

《 夕食は名産のイベリコ豚を食べに 「シンコ・ホタス・ランブラ」 へ 》



お店の前の自転車はヨーロッパの食料品店では定番の看板の一種です。イベリコ豚は日本でも人気が高いですが、「イベリア種」と呼ばれるスペイン原産の黒豚で、スペイン政府が厳重に格付けするブランド豚です。油の部分のおいしさは濃厚で独特です。このうまみを出すためにドングリなどの木の実を大量に食べさせます。油の融点は37度と低く、そのため抜群の口溶けになります。「シンコ・ホタス・ランブラ」はバルセロナの住人が「ここは旨いよ!」という有名店です。



(店内の様子)



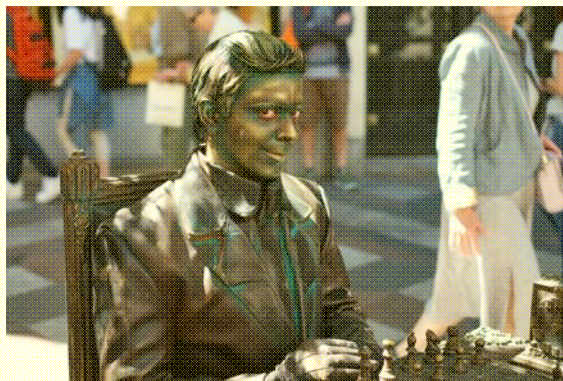
(サラダ)



(イベリコ豚の生ハム)



(豚ステーキ)



大道芸を見せてくれる人は日本より確実に多いです。これは人形振りです。かなりのパフォーマンス。但し日本より遙かにプライドが高いですから近寄って見たら、小銭をおいてくるのがルールです。興味がなかったら近寄らないほうが安全です。

【 バルセロナ 】



昨日、到着したバルセロナですが、観光は今日からです。先ず朝食を食べましょう。



バルセロナはカタルーニャ州の州都ですのでこの旅行のテーマを「三都物語」にしています。このカタルーニャ州にはスペインと違った言葉や文化があり独立運動も起こっています。現在はスペインの自治州の立場を獲得しています。その自治権の拡大を目論んだ 2006 年自治憲章をスペイン憲法裁判所が違憲としたことから民主化後最大の社会問題となりました。いつかは独立を！というのがカタルーニャ州の悲願になっているそうです。



(ムンジュイックの丘からバルセロナ港を望む)

何をもって、これぞバルセロナとご紹介するか迷うところではありますが、写真はバルセロナ港、海の玄関口です。ヨーロッパ中からの豪華客船が停泊中です。



ムンジュイックの丘はバルセロナが見渡せるので本旅行でも何回か登ってきます。



この場所で写真を撮りましたのでご紹介してしまいます。バルセロナのガイドさんのモイセスさんです。日本人ツアーでの人気はナンバーワンです。それもそのはず、彼は純粋なスペイン人ですが、言葉は本物の日本語なんです。いい男ですね。少年期・青年期を日本で過ごして、日本のある国立大学卒業後スペインに渡りました。「渡る」？ご両親が日本にいらっしゃるの彼のご実家は日本なんです。彼にご案内をお願いしてありますが、もう少し時期が近づかないとスケジュールがわかりません。ですから違うガイドさんになる可能性もあります。

バルセロナでの観光は、来訪者が多すぎて入館制限のある「グエル公園」訪問が何時になるかによって順路が変わります。訪問順不同でご紹介していきます。またこの日の昼食場所が未定です。決まり次第、ブログ等でお知らせします。

《 サグラダ・ファミリア教会 》



サグラダ・ファミリアは今やスペインの顔だと言っても良いほどの知名度があります。この教会の下では世界各国からの観光客がみんなまぶしそうな顔で見上げています。やがて気がつくと自分もそんな顔をしています。「私は日本から来て遂にここに立ったんだ。」という感慨が押し寄せます。



東側の入り口にある「生誕のファサード」は見逃せません。聖書のイエス生誕の場面を表しています。サグラダ・ファミリアは何故ファミリアと名乗るのか、主人公が写真下部中央の聖家族だからです。マリアの膝に抱かれた赤ん坊のイエスとそれを見守るヨセフの3人です。その上部の「15体の天使の像」は日本人の作品です。外尾悦郎さん、サグラダ・ファミリア主任彫刻家です。天使のうち2人が日本人の顔をしています。捜してください。マリアの真上の2人ですね。最初は物議を醸したのですが、外尾さんの「日本にだって天使はいる。」の言葉に、「ソトオがそう言うのなら仕方がない。そういうことだ。」と批判は小さくなっていきました。



内部の柱はこんな複雑な構造。強度計算なんて一人で出来るの？と思ってしまいます。



ミサが行われる主祭壇、このスケール感は写真では到底お伝えできません。現場に立てば圧倒的です。

《グエル公園》



グエル公園一番の人気者、大階段の「トカゲの噴水」です。グエル公園はガウディのパトロンだったグエル伯爵がガウディに依頼してバルセロナに高級分譲地を作ろうという目論見で1900年から1914年にかけて建築されました。彼らの理想は自然と芸術に囲まれて自由に暮らす事が出来る住宅地を作ろうという事だったのですが当時の人々には全く理解されず、60件の計画は2件しか売れませんでした。買ったのはグエル伯爵とガウディだけ、つまり一般には1件も売れなかったのです。当然計画は頓挫、分譲地は市に寄付され公営公園となりました。時代が下って人々がガウディを理解するようになるとグエル公園は世界遺産になってしまったのです。ガウディのトカゲは幸せをもたらすとしてお土産にも人気です。



中央広場を囲むベンチも曲線で形作られていて座り心地が良いです。この座り心地は、当然のことながら座ってみないとわかりません。そして一旦座ったら、簡単にどく人はいません。ですから誰かに座ってもらって写真を撮るという手を使いました。

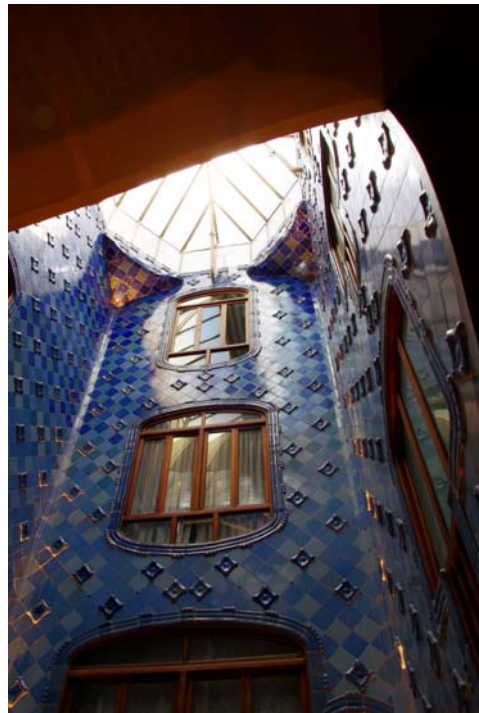


いかにもガウディらしい夢の中のような2件の家が並んで建っています。ご覧のように中にも入れますが一旦入るとなかなか出てきてくれません。特に窓辺に立った人はずっと立っています。それをゆったり待っている人も多く、スペインでは時間はゆっくり流れるんだなと思ったり、我々日本人はきっと世界一のせっかちに違いはないと思ったりします。

《カッサ・バトリヨ》



写真の真ん中にある青い建物がカッサ・バトリヨです。1877年建築の個人住宅の再建築を頼まれたのが1904年、それから3年をかけて改装だけで対応し、完成させました。5階と地下が追加されています。施工主はカザノバスという繊維関係の豪商でした。



写真の左は建物の裏側。右は建物内に作られた吹き抜けです。カザノバスはガウディにこう頼みました。「どうか、バルセロナ中で他にない、驚くような建物にしてもらいたい。」ガウディはこう答えます。「そんなのは僕に任せておけばいい。改装だけで出来るよ。とても目立つ建物がね。」

その結果、個人住宅でさえ世界遺産になりました。実物の中に入ってご覧下さい。ガウディが

何を求めていたか伝わってきます。それはきっと、あくまでも優しい自然の中で人間を幸せに生かしたいという願いだったのかもしれませんが。中にお土産店もあります。

《昼食 フィデウア または マリーナ・ベイ 》

当日のコースによってお昼は「フィデウア」か「マリーナ・ベイ」のどちらかで取ります。

「マリーナ・ベイ」



「マリーナ・ベイ」は調査してありますのでお知らせします。バルセロナのマリーナ近くは高級レストランが集中する場所で、なんといってもマリーナというお金持ちが集まる場所ですからおしゃれなお店がいくつもあります。この落ちてきそうな丸い玉が目印の「マリーナ・ベイ」もそんなお店の一つです。



前菜です。左上の「イカの唐揚げ」は美味しいです。ただの塩味で唐揚げにただけなのですが、手が止まりません。



これも海老をソテーしただけのようです。素材が美味しいから、もう間違いなく美味しいです。



パスタのパエリアです。パエリアは煮る料理ですからご飯を炊かない場合はどんなに柔らかくしても芯が残ります。二つのパエリア店で話し合いもしたのですが、文化の違いと言うしかない状態です。そこでこのお店ではパスタのパエリア「フィデウア・ア・バンダ」を選択します。15ミリほどの長さのそうめんのように細いパスタのパエリア。味付けはサフランです。サフランをこの色になるまで使うと甘口のカレーに近くなります。お米より違和感がないかもしれません。スペインではカタルーニャの隣のバレンシア州でお米が取れます。日本のものより大きくて丸いお米でした。

《 夕食 日本料理 やしま 》



日本の料理から離れて4日経っています。スペイン料理は他の国から比べたら日本人の舌に合っているはずですが、それでも日本食が恋しくなってきました。今回は日本料亭の「やしま」さんが宿泊ホテル「メリア・サリア」から歩いて行ける距離にありますので、ご案内致します。「やしま」は勿論「八州」、日本の事です。バルセロナのサリアで、ここは日本なんだよとアピールしているという心意気です。





中村勘九郎、七之助兄弟がごひいきにしています。



(海鮮の前菜)



(お造り)



(筍の椀もの)



(ホタテ雲丹)



(やしま アラカルト)

国内と変わらないレシピと盛り付けです。スペイン人の味覚に合わせて塩が強いのが気になります。女将と相談してシティ旅行会用に日本の味の塩加減をお願いして参りました。

5日目

バルセロナ→モンセラット修道院

→バルセロナ

《モザイク教室 モザイコス》 または 《フリータイム》

5日目の午前中はモザイク教室でモザイクを作るか、または自由時間にして好きなお買い物等にご利用ください。



バルセロナのちょっと混雑した商店街の一角に、「モザイクス」があります。昨日ガウディのモザイク装飾を見てきましたから、モザイクってどういう風に作るのか体験できたら、思い出になるに違いありません。モザイク教室を選択なさった方にご案内します。早めに終わった方は周りが商店街ですから生活雑貨や食品ならお土産として買うことができます。



例えばこんな小箱が作れたら、楽しいんじゃないでしょうか。この他にも額とかトレイとかの木製ベースの部分があって選べます。それにモザイクを貼っていくわけです。時間は2時間ほどが標準です。



中央にあるのが色分けされたモザイクになる陶器片でこれを大型のペンチで形に合わせて割っていき、貼り付けます。講師はアンジェリカ・ハインバッハさん、とても明るい女性でした。

《昼食 エル・カングレホ・ロコ》 昼食のレストランで合流します。



マリーナのレストラン群の一つです。戸口でマネージャーさんがやってる「オラー！」がオラーの理想型です。手と首を内側にちょっと傾けます。



カニがトレードマークのこのレストランは海鮮が売りのお店です。しかも明るい地中海を見ながらの食事はスペインの人から見ても贅沢です。南フランスが近いですから雰囲気も似ています。



(イカとマグロのマリネ)



(カニのサラダ)



(「パエーリャ・ネグラ」イカスミのパエリア、これは食べません。)

《モンセラット修道院》



バルセロナから北西に60キロほど走ったところにモンセラット修道院があります。この、もこもこして更に線が走ってる山がモンセラット山、線の部分をのこぎりで挽いた跡と見て「ノコギリ山」というのが名前の由来です。ガウディはモンセラットにも何度も来ていますので、この山がサグラダ・ファミリアの原型になったのではないかとされています。



修道院側から下界を見下ろしています。高所なので寒いです。いつものウルトラ・ライト・ダウンをひっぱり出しました。初夏なのに、です。



こちらの一番人気は、カタルーニャの守護聖母「ラ・モネレータ」、黒いマリア像です。ナポレオンの侵攻の時にこの修道院も破壊し尽くされたのですが、信仰篤き修道僧達が自分たちの命に代えて守った像です。肌の部分が黒いのは灯明の煤と言われていたのですが、最近ではニスの変色という説に変わってきました。マリア様の右手と玉の部分に穴が開いていまして、これに触れると幸せになれるそうです。



《 夕食 エル・シャレット・デ・ムンジュイック 》



モンセラットからバルセロナに帰ってくるとスペインでの最後の夕食です。

「エル・シャレット・デ・ムンジュイック」は、丘の上にあり、テラスまで出ると市内や地中海も見える素晴らしい眺望のレストランです。調査の時は早い時間に入ったので明るく、この写真は帰りに撮ったものです。本番実施の時は夜になっており上の写真のような夜景が楽しめるはずです。時間が遅くなるにつれドレスとスーツのカップルが多くなり、ウェイター達も丁寧な応対をするしっかりしたレストランです。



(まだ打合せ中のウェイターさん達)



(海老のサラダ)



(チキンの照り焼き風)



(デザート)

6. 7 日 目

バルセロナ→マドリード→成田



朝食後、バルセロナからマドリードまでのスペイン国内線に乗ります。9:30発の IB931 便です。マドリード着が 10:55 ですから搭乗時間は1時間25分です。機材はエアバス A320-200 でした。近・中距離用の機体ですが、デジタル化が進んでいます。操縦席には見慣れたタイプの操縦桿がありません。そこはミニ・テーブルになっていてフライト・データ等を置いておけるようになっています。操縦桿は機長・副長席の外側から短くて太めの一本棒が立ち上がっています。ゲームセンターのコントローラーのようです。機長・副長で操縦する左右の腕が違うのが驚く点です。利き手じゃない方は操縦しにくいと思うんですが。いずれにせよこの操縦桿が使えるようになったのは飛行機の翼可動部分を全てデジタル信号で動かすようになったからで世の中は想像を超えて進んでいます。



航空機の乗り継ぎは、心配しても何の益もないんですが、乗ってきた便が遅れないだろうか？という心配と、乗るべき便が自分を待っているか？という心配で良い気持ちはしないものです。ですからコンコースの窓から成田への便が見えると安心します。イベリア航空 IB6801便は13:05発ですので2時間10分のトランジットタイム、ゆっくり乗り継げます。また万一何かあった場合も同一航空会社ですから対処は早いはずです。機材は来たときと同じエアバス A330-200です。

成田到着は朝の9:25の予定です。飛行時間は13時間20分です。長時間お疲れ様でした。ご自宅までもう少しの間、気をつけてお帰り下さい。



豆知識 1. 《チップについて》

スペインにはチップという考え方はあるのですが、とても弱く、相場とか「いくら払わなければいけない」というものはありません。ホテルマンたちにも不要です。（日本と同じで宿泊料金に含まれているという考え方です。）また、私たちの団体行動中でお客様のチップが必要な場合は無いと思います。例外は枕銭でこれは1~2ユーロ程度です。

特別にこちらの要望を聞いてもらった時、特に良いサービスを受けた時にはチップということになるのですが、多くの場合おつりの小銭の中から少々という程度です。

9

豆知識 2. 《電源コンセント変換プラグについて》



スペインの商用電源コンセントは「C タイプ」がほとんどで、それに「SE タイプ」が混じる事があります。両者の違いは軸の太さで「SE タイプ」の方が太いので「C」タイプとの互換性が無いのです。今回の1・2泊目ウエリントンホテル客室には「C タイプ」が2つ「SE タイプ」が1つでした。3泊目以降のメリア・バルセロナ・サリア客室には「C タイプ」が7つ、そのうち1つが降圧トランス付きで日本の電気製品も使える「C タイプ」コンセントでした。以上から「C タイプ」変換アダプターをお持ちになるのが良いと思われます。ヨドバシ等の家電量販店で「C 変換アダプター」と言って買います。1個300円から450円くらいで手に入ります。お持ちになる電気器具によって1~2個ご用意頂くと便利です。

日本製のカメラ用バッテリー充電器は240Vまで耐える物が多いのですが、日本国内専用充電器や一般の電気器具は、変圧器を使って電圧を下げないと使えないものがあります。お持ちになる電気機器の耐電圧をお調べ頂き、100ボルトまででしたら降圧器が必要になります。降圧器もヨドバシ等の家電量販店で買えますが、数千円して高額、かつやや重いのが難点です。

豆知識 3. 《覚えておきたいスペイン語》

スペインで英語を理解する人は、日本で英語を理解する人より少ないといわれています。そうであるなら自己救済のため、覚えなければいけない単語があります。発音はカタカナ発音で通じます。

★「ラバボ」 トイレのことです。トイレの位置はどこに行っても押さえておかないといけません。

トイレはどこですか？ = 「ドンデ・エスタ・エル・ラバボ？」



★「オラー」 エアバスの個人用モニターです。Hola 最初の H (アチュ) はサイレント。「オラー」はただの挨拶ではありません。

「私はあなたと価値観を共用し、あなたを傷つけることはありません。神（仏）を信じ、社会の中でその一員として生きていける大人です。」という約束がたった一語に込められています。だから大きな声で「オラー！」と叫びます。恥ずかしいとか、そういった問題ではありません。

★「ポルファボール」 英語でプリーズに当たる言葉、あらゆる場面で自分が必要なものにこれを使うと、なんとかなります。

水が欲しい＝「アグァ、ポルファボール」

コーラをお願い＝「コカコラ、ポルファボール」

コーヒーが飲みたい＝「カフェ、ポルファボール」

紅茶が欲しい＝「テネグロ、ポルファボール」形容詞は後ろから係ります。テ(お茶)ネグロ(黒)。

つまり紅茶は赤いお茶ではなく、黒いお茶と表現するんですね。

毛布をくれ＝「マンタ、ポルファボール」 マントという日本語はマンタ(毛布)なんだとわかります。

応用が利く単語です。

★「トゥリスモ」 観光。入国審査は一人にされますからちょっと冷や汗ものです。「オプヘト、デス、ビアヘ？」と聞いてきます。オプヘトが目的、ビアヘが訪問ですのでオプヘトが聞き分けられたら「トゥリスモ」(観光です)と答えます。入国審査官はたいてい英語が通じますが、一言も発しない審査官がいるのもまた事実です。

豆知識 4. 《現地気候について》

気候・服装は東京の出発時と同じくらいと言えますが、マドリッドはヨーロッパの首都の中で一番高度が高く、モンセラットのような高地も訪れますのでそれより寒い方向にお考え下さい。いつものようにウルトラ・ライト・ダウン以上のダウンコートは必要です。

豆知識 5. 《タクシーだまり》



流しのタクシーを捕まえるのは、東京に比べ、かなり大変な作業です。どのタクシーも脇目も振らず一心に飛ばしているという印象です。そんなときは大通りから一つ入った道の停止線から向こうに、写真のような黄色のジグザグ線が書かれたところがあります。これがタクシーだまりで、ルールとしては空車になるとここで客を待つ事になっています。

ですからここに来てタクシー待ちをするのが最も便利です。

乗った後、快適か？というとスリルがあります。スピードは速く、ブレーキポイントは遅くハラハラします。カーナビを利用する車は少なく、ほとんどスマホナビです。

◆令和初めての海外旅行はスペインです、是非ご参加下さい！

【実施日程】 第1班 10月 6日(日)～10月12日(土)

第2班 11月10日(日)～11月16日(土)

【募集人員】 80名 ※最小催行人数 各班について 15名

【旅行代金】 560,000円(2名1室ご利用の場合の1名様分)

*上記料金には、燃油特別付加運賃・各国航空諸税を含みます。

但し、原油価格および為替レートに大幅な変動が生じた場合は、追加代金を申し受けます。

3名一室の設定はございません。

【1名様で1室をご利用の場合】追加料金80,000円(5泊分)がかかります。

【募集締切】 1班：令和元年9月6日(金) 2班：令和元年10月4日(金)

【利用航空会社】イベリア航空(2レターコード：IB)

【ビジネスクラス利用の場合】(追加手配・代金についてはお申し込み後の手続きとなります)

追加代金：約65万円前後(先着順)

【旅券残存必要期間】出国予定日より3ヶ月以上が必要です。

*上記料金は出発まで期間があるため、変更になる場合があります。

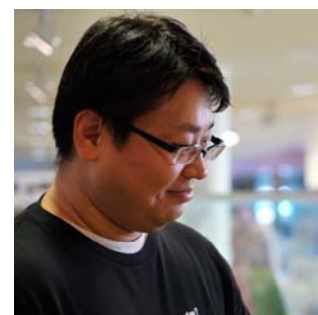
*締切前に定員に達する場合もございます。

〔 調査・調整 〕

東京シティ信用金庫 理事地域戦略統轄本部長 渡邊 正之



名鉄観光サービス株式会社 東京中央支店 支店長代理 東崎 英行



(ブラド美術館にて。彼は思いの外美術好きでした。)



「おーい、その日本人カメラマン！」写真右端の若者から声をかけられました。「俺たちの写真を撮ってくれ！そして日本に帰ったらみんなに伝えて欲しい。アトレティコ・マドリードを応援してくれってね。」

(マドリード・プロ・ショップの前で)

アトレティコ・マドリードはリーガ・エスパニョーラの一員ですが日本ではあまり知られていませんね。でもスペインの若者たちは明るく陽気です。約束は果たしたよ。

日 時 Days	都市名 City	現地時間 Local Time	交通機関 Transportaion	摘 要 Remarks	食 事 Meal
1	集 合 成田空港 発 マドリード空港	9:00 11:05 18:15 20:00	IB6800	成田空港にて集合・裏面参照 イベリア航空にてマドリードへ マドリード空港到着 到着後、ホテルへご案内 マドリード (泊)	朝：機 内 昼：機内で軽食 夕： ×
2	マドリード	9:00	専用車	朝食後、トレド半日観光へ トレド大聖堂、市庁舎広場 昼食後、マドリード市内半日観光へ ソフィア王妃芸術センター、王宮 夕食後、フラメンコショー マドリード (泊)	朝： ○ 昼： ○ 夕： ○
3	マドリード	9:00	専用車	朝食後、マドリード市内半日観光 プラド美術館、スペイン広場、王宮 昼食後、AVEでマドリード→バルセロナへ 1等車予定 夕食はレストランにて バルセロナ (泊)	朝： ○ 昼： ○ 夕： ○
4	バルセロナ	9:00	専用車	朝食後、バルセロナ終日観光 サグラダファミリア モンジュイックの丘、 マリーナで昼食 グエル公園、 スペイン広場 夕食は日本食レストランにて バルセロナ (泊)	朝： ○ 昼： ○ 夕： ○
5	バルセロナ	9:00	専用車	朝食後、バルセロナ市内観光(モザイク作り) 又は昼食・観光までフリー 昼食 昼食後、モンセラット修道院へ モンセラット修道院観光 夕食は夜景が見えるレストランにて バルセロナ (泊)	朝： ○ 昼： ○ 夕： ○
6	バルセロナ マドリード空港	9:30 11:20 13:00	専用車 IB931 IB6801	朝食後、バルセロナ空港へ 空路、マドリードへ マドリード空港着 イベリア航空にて成田へ	朝： ○ 昼： × 夕：機 内
7	成田空港	9:25		到着後、解散	朝：機内で軽食 昼： × 夕： ×

※上記行程表は、予約関係や利用交通機関の時刻変更などで変更が生じる場合がございます。

Meitetsu World Travel, Inc